教育支援部だより

令和7年1月

今回は、UD フォントとカラーUD を中心に文字の提示の仕方について検討してみました。

1　文字を読むときの困難さについて

知的障害のある方は、視力が十分にあっても、文字を読む際に認知的な処理や注意の特性に関連して以下のような課題が生じることが考えられます。

・濁点や形のわずかな違いに気付くことが難しい。
　例えば、「ば」と「ぱ」など、細かい違いを見分けることが難しい。

・どこを見れば良いかが分からない。
　「ここを見て」と言われても、具体的にどの部分に注目すれば良いのか理解することが難しい場合がある。

・複雑な形や小さな文字が分かりづらい。
　線が多い漢字や小さい文字では、全体の形を把握するのが難しい。

・見たままに捉えることで読み文字のように手書き文字を書く場合がある。
　例えば、「き」を「き」と書く。「山」を「凵」と書くため縦線が下に突き出るように４画で書く。

2　フォントの特徴

フォント名	基本的な特徴	利点	課題
明朝体 令	縦線が太く横線が細い。端に「ウロコ」と呼ばれる装飾がある。線の強弱が美しいバランスを生む。	装飾が目を引きやすく、特に短いテキストで視線を引きつけやすくなる。	横線が細く、濁点や句読点が見えにくい。細部が背景に溶け込みやすい。
ゴシック体 令	線の太さが均一で装飾が少なく、シンプルで力強い印象。教科書体と異なる形状の文字が多い。	線が均一で視覚的に捉えやすい。短い単語や見出しでの使用に適している。	「き」「ふ」「山」「令」など、手書き文字と異なる形状が混乱を引き起こす場合がある。長文では単調になりやすい。
教科書体 令	学習指導要領に準拠した形状で、正しい画数や運筆を学べる。線に強弱があり、教育現場で広く使用されている。	初学者が文字の正しい形状や書き方を学ぶのに適している。これまで教育現場で標準的とされてきたフォント。	横線が細く、視覚的負担が大きい場合がある。複雑な漢字では全体像が捉えにくい。
UD デジタル教科書体 令	線の太さが均一で、濁点や句読点、小さな要素が明確に見える。教科書体に近い形状で学習指導に対応しやすい。	濁点や記号が明確で細部への注意が向けやすい。似た文字（例：「さ」と「き」）の区別がしやすい。	線の太さが均一で教科書体と異なるため、『とめ』『はね』などの運筆指導に補足が必要となる場合がある。

3　文字を読むときの困難さについて

知的障害のある方は、色覚が正常であっても色を捉える際に認知的な処理や注意の特性に関連して以下のような課題が生じることが考えられます。

・注意が分散しやすいため、色の違いや重要な部分に気付きにくい。
・色が示す意味を適切に解釈できない。
・似た色を混同することがある。
・背景色と文字色の明るさの差が小さいとコントラストが低いため、見分けることが難しい。
・情報量が多いと混乱するため、複雑でカラフルな教材ではどれが重要か分かりづらい。

4　色の配慮すべきポイント

配慮項目	具体的な配慮内容
コントラストを強調	背景色と文字色の明度差を十分に取る。淡い色や類似色の組み合わせを避ける。
シンプルな配色	必要最小限の色数で情報を整理し、混乱を防ぐ。
補助的な情報を追加	色だけでなく、形や文字、模様で情報を補足する。
個別の特性に応じた調整	色の識別が苦手な場合、特定の色を避けたり、個人に合った教材や表示方法を選んだりする。

5　書体の役割は３つ

1　情報を伝える。

・イラストも手助けになるが文字情報があると意図する内容を伝えるための正確性が格段に上がる。

2　イメージを伝える。

・楽しい雰囲気を伝えたくてポップ体を使いたくなることもあるでしょう。

3　読みやすさを助ける・配慮する。

・読み手の年齢・特性・好み、その目的や状況により、読みやすいと感じる書体は異なります。UD フォントは読みにくさを抱える人に寄り添いながら多くの人の読みやすさも損なわない書体です。しかし、誰にでも読みやすいわけでもありません。

6　読み手に分かりやすい文字提示とは

対象者や目的によって提示の仕方は千差万別です。状況に応じて以下の点を参考にして下さい。

対象者	読み手の文字を読む力を捉えていますか？ 誰が、どのくらい離れた場所から見るかを想定していますか？ 対象者は不特定多数ですか？
フォントと文字サイズ	読みやすいフォントを使っていますか？ 十分に大きな文字サイズを選んでいますか？
色とコントラスト	背景色と文字色のコントラストがはっきりしていますか？ 淡い色や似た色（例：赤とオレンジ）を避けていますか？
情報量と配置	情報が整理され、見やすい配置になっていますか？ 必要以上の情報を詰め込んでいませんか？
実際の環境での確認	提示場所の明るさや視認性を確認していますか？ 実際に対象者が読めるか確認できますか？

7　本校での事例

・高等部時間割表
・黒の背景に白字
・UD 教科書体
・担当クラスの識字力の差が大きいため漢字にフリガナを付けて提示

・小学部
生活単元学習
・UD 教科書体
・イラストと文字で提示
・実態に合わせて全てひらがなで提示

・キーポイント「すずしい」は黄色の背景に黒字で強調

8　最後に

今回は、知的障害のある方を対象にした文字の提示方法について考えました。今回は取り上げていませんが、ディスレクシアや色覚異常が重複している場合も考慮が必要です。その場合、認知的な処理や注意の特性だけでなく、視覚的に形を捉える機能に関する困難にも配慮が必要となります。

参考文献

高田裕美（2023）「奇跡のフォント　教科書が読めない子どもを知って UD デジタル教科書体　開発物語」時事通信社

愛知県（2018）「すべての人にやさしい情報を届けよう～視覚情報のユニバーサルデザインガイドブック～」愛知県健康福祉部障害福祉課